

編集後記：昨日10月24日の夜中、家のガラス戸がガタガタと音をたてていて、風が強いなと感じていたら、今日のニュースで東京で木枯らし1号が吹いたと話題になっていました。今、この編集後記の原稿を書いているのですが、新聞の天気図を見ても、北日本を中心に西高東低の冬型の気圧配置になっていて、秋の深まりを感じます。一方で、天気図を見ると、日本のはるか東の海上には台風があり、まだまだ日本周辺に台風が接近する可能性があることも教えてくれます。

つい最近の台風では、10月上旬に台風第23号が北海道東部に接近しました。この時期に北海道に接近すること自体が珍しいのですが、関東の東海上から三陸沖を北上する形で北海道東部に接近してきたので、とても珍しいコースで来るなと驚いていたのですが、ふと、なんとなくこの台風のコースに見覚えがある気がしました。調べてみると、1992年の台風第17号が、9月なのですが、似たようなコースをたどって北海道東

部に接近していました。当時北海道にいた自分はまだ子供で、天気に興味を持ち始めて家の新聞の天気図などを見ていたのですが、北海道に来る台風は日本海を北東進してくるイメージのみでした（前年の台風第19号（りんご台風とも呼ばれる）が日本海から北海道に来たのでその印象が余計強かったのかもしれませんが）。今思い返してみると、天気図で北海道に向かって台風の円が直接南から北に北上してきたので、そっちからも来るんだ、と子供心に不思議に思ったような記憶があり、強い印象を残したのかもかもしれません。

今回は思いがけないところで記憶が蘇ってきたのですが、今回の台風に限らず、珍しい自然現象や自然災害の事例と想着いても探すと意外と過去にあったりするものです。一度あることは二度あるとも言いますし、覚えていれば、自然災害を未然に防ぐ手助けになるかもしれません。（中川憲一）